

新都はいまだ成らず

辻 憲男（文学部教授）

兵庫県神戸市兵庫区。鈴蘭台もかつてはそういった。県名と区名が同じなのは、明治の開港までは兵庫の町が栄えていたから。いまのハーバーランドの西方、旧兵庫城に最初の県庁が置かれた。

古代の大輪田の泊（とまり）を整備したのは、悪名も高いあの平清盛（たいらのきよもり）。兵庫福原の別荘に住み、京都の政治を動かした。1180年6月にはとうとうここに都を移した。瀬戸内海と西国をおさえた平氏の棟梁、中国・宋との貿易をすすめた清盛にしてみれば、せま苦しい盆地よりも潮の香の海辺が大好きだったのだ。急な引っ越しで貴族も庶民も大騒ぎになった。まだ若かった鴨長明（かものちょうめい）は福原の都に来て、「古京はすでに荒れて、新都はいまだ成らず」と嘆いた。大風や飢饉や地震が起こった。後の源平の争乱も、ただあさましい光景と映った。そのころ流行した歌謡に「仏は常にいませどもうつつならぬぞあはれなる」というのがある。同じ乱世を生きたこの二人、早くに出家したが、現世の迷いを捨て去ることはなかった。

時は移って、18世紀の兵庫津は、北海道から昆布やニシンを運ぶ北前船でにぎわった。魚屋は長大な水槽に海水を引き入れ、タイ、ハモ、スズキなどを泳がせて往来の人々を楽しませた。生洲（いけす）の跡はいまの中央卸売市場の近くである。下の写真は能福寺（兵庫大仏）の前の“兵庫津の道”。



文中の出典は平家物語、方丈記、梁塵秘抄（りょうじんひしょう）、摂津名所図会（せつづめいしよずえ）。